

オスロ大学図書館訪問記

西脇 亜由子^{*}

はじめに

2015年10月4日～7日の日程で、国公立大学図書館協力委員会による派遣事業の一環として、ノルウェー（オスロ）にて開催された国際図書館コンソーシアム連合（ICOLC: International Coalition of Library Consortia）2015年秋季会合に参加する機会を得た。この際、オスロ大学図書館を見学し図書館の方にお話を伺うことができたため、以下本稿ではその報告を行う（なお、当該会合については別稿で参加報告を行う予定である¹⁾）。

1 訪問先

今回見学した図書館はオスロ郊外のブリンナン（Blindern）キャンパスにある人文社会学図書館である。市内中心部からは地下鉄で2駅ほど先に最寄駅があり、現在はそちらがメインキャンパスとなっている。なお、上記会合のレセプションが開催されたオスロ市中心部のキャンパスにある法学部図書館（Domus Bibliotheca）の様子も簡単に報告する。

^{*}にしわき・あゆこ／学術・社会連携部 図書館総務事務室

¹⁾「大学図書館研究」105号, 「日本農学図書館協議会誌」181号掲載予定。

2 オスロ大学人文社会学図書館見学

オスロ大学は 1811 年に設立されたノルウェー最古かつ最大規模の国立大学である。神学、法学、医学、人文学、数学自然科学、歯学、社会学、教育学の 8 学部から構成され、学生数 27,227 名（うち学部生数 14,077 名）、教職員数 6,194 名（うち職員数 1,622 名）、2015 年の年間予算は 71 億クローネ（約 1,070 億円）に及ぶ。附属図書館は医学・人文社会学・法学・自然科学の 4 分野にわたり 22 館あり、蔵書数 280 万冊²。図書館の職員数としては全体で 180 名ほど、そのうち今回訪問した人文社会学図書館だけで約 100 名とのことである。

1999 年 9 月に開館した人文社会学図書館は、ブリンナン・キャンパス内のほぼ中心にある黒い石とガラス張りのモダンな外観の建物 Georg Sverdrups hus の中にある（写真 1）。この建物は教室やカフェテリアもある複合施設で、授業の前後に図書館を利用する学生も多いという。今回の訪問では、ノルウェーの図書館に関する著書もある³ マグヌスセン矢部さんに対応していただき、まずは館内を案内してもらった。建物に入ってすぐ右手に図書館入口がある（写真 2）。入館ゲートのようなものは特になく、18 歳以上のオスロ市民には開放され図書貸出も可能である。1 階の入口に入る



写真1 人文社会学図書館の入る建物
Georg Sverdrups hus



写真2 図書館入口

²大学の公開情報については下記を参照（以下全て 2015-12-25 参照）。
“UiO in brief”. <http://www.uio.no/english/about/facts/uio-in-brief/> および
“Fact sheet about UiO (pdf)”. <http://www.uio.no/english/about/facts/uio-facts-2015.pdf>

³マグヌスセン矢部直美他、文化を育むノルウェーの図書館：物語・ことば・知識が踊る空間、新評論社、2013。

とスペースが広がり、左手前から貸出カウンター、その奥にレファレンスカウンターが設置されている（写真3）。開館当初は入口正面にレファレンスカウンターがあったそうだが、利用上の関係から現在の位置に移動された。現在、カウンター対応スタッフはおもにアシスタントや学生スタッフとのことである。



写真3 カウンター周辺の様子

今後1階のスペースをアクティブ・ラーニング的なエリアに改修する意向もあるらしいが、予算がどの程度つくか、またスペース確保のために書架を撤去する場合、そこに収容されている図書の配架をどうするかが課題になっている。また、1階奥には修士論文が配架されている書架があり驚いたのだが、実は全てすでに電子化されていて冊子体の方は廃棄予定とのことだった。この他1階には新着図書コーナーやOPAC検索端末、雑誌書架、閲覧席などがある。ガラス張りの図書館らしく全体的に明るくかつ落ち着きがある。2階は社会学フロア、3～4階は人文学フロアとなっている。各フロアの説明用バナー表示も大きく、ノルウェー語・英語併記で分かりやすい（写真4）。館内各所に細かく閲覧席が配置され、窓際の明るい場所、バルコニーのように1階を見渡せる場所、避難用階段の上にある離れ小島のような場所など、学生はそれぞれのお気に入りの場所で学習しているようだ（写真5,6）。



写真4 フロア説明サイン

もともと各階にレファレンスカウンターがあったが、スペースが少なくなり、電子化・情報化が進んでいるなどの理由からカウンターをなくしたフロアもあるとのことだ。4階には、日・中・韓の図書が配架され（写真7）、パピルス資料研究用特別閲覧室（パピルス資料及び閲覧用大型機などが設

置)もある。また、利用ガイダンスなどに使えるPCのあるレクチャー室は、他の図書館のスタッフもガイダンスによく利用するそうだ(写真8)。少人数で会話しながら利用できる学習室もある。コピー・プリンター室はドアで開閉し音を遮断できるようになっている。特に携帯電話の通話スペースなどは設置していないが、このような音を遮断できる場所でもらえればありがたい、とのことだった。地下1階には文学作品・雑誌が配架される書庫があり、入庫自由となっている。文学作品は、作品のオリジナル言語の分類に、その翻訳作品も一緒に配架されるそうで、たしかにその方が翻訳と比較する際には利用しやすく作品研究には合理的だと思われた。館内のサービスや設備については、利用者からの要望や意見はなるべく反映させ対応しているとのこと、それは利用者サービス中心でありまたノルウェーに根づく「デモクラシー」文化という背景も関係しているのではとのお話だった。



写真5 館内の書架と閲覧席 1



写真6 館内の書架と閲覧席 2



写真7 日本語図書



写真8 レクチャー室

館内見学後、図書館と2階部分でつながるカフェテリアに移動し、大学図書館の業務や特性などについて伺った。ノルウェー経済は基本的に落ち着いていたが、主要産業の石油化学の落ち込み傾向もあり予算は厳しくなっており、特に電子ジャーナルなどのデジタル資料に予算を取られるため冊子体図書の新刊が買えなくなってきたとのことだ。ノルウェーの大学はほとんどが国立で、学費は無料であり、ILLも無料（学部生は北欧域内が無料、修士以上はそれ以上の国外も無料）ときいて感心したが、図書館サービスが有料になると学習環境に格差が生じてしまうという理由からだそう。マグヌスセン矢部さんの担当分野である日本学・日本研究に関しては、北欧各国に加え北欧理事会という機関で域内の連携や意思決定も行われているそうだ。JapanKnowledge やヨミダスなどの日本語データベースも使えるようになっているが、それに加え EU ライセンスなどの形もほしいとのことだった。北欧では日本語や日本研究に関心を持つ学生は少なくないそうだが、実は中・韓のツールに比べ総じて日本語のツール（データベースやサービス等）は国際的な利用や学習支援のための英語化という意識が低く、海外の学習者にはハードルが高いのだという。今後の日本研究の進展や日本からの／に関する情報発信を強めるためにも、日本語学習支援という視点は本学を含め日本の大学にとっても重要であると感じた。

ノルウェー国内ではデジタル資料導入（ナショナル・ライセンス強化など）のためのコンソーシアム⁴があり、機関リポジトリ横断検索のようなシステムも整備され研究成果の可視化に利用でき、図書館員も積極的に業績として登録しているという。またノルウェー国内の図書館業務システムはコンソーシアム単位で採用しており、オスロ大学ではディスカバリサービスも導入しているが、こうしたサービスの管理画面が分かりにくく使い勝手が悪いため苦勞しているとのことだった。

多岐にわたるお話を伺い、さまざまな環境や条件の違いはあるものの、大学図書館としての取り組みや課題には共通点も多く示唆的な内容も多かった。今回お忙しい中を非常に丁寧にご対応いただいたマグヌスセン矢部さんには深く感謝したい。

⁴“Cristin-Current Research Information System In Norway”. <http://www.cristin.no/english/>

3 オスロ大学法学部図書館 (Domus Bibliotheca)

オスロ市内中心にある法学部キャンパス内の法学部図書館は学内でも最も古い建物(1852年竣工)の一つというが(写真9)、以前はノーベル平和賞の授与式も行われていたアウラ講堂(写真10)など周囲の建物とも相俟ってまさに伝統的な大学図書館の雰囲気に満ちている。比較的小ぢんまりとした館内は木製の書架が立ち並び、2階部分も含め吹き抜けの中央部には閲覧スペースが設置されPCなども利用できる。閲覧スペースはもともと書庫だったものを現在のように採光できるように改修したそうである。スカンジナビア法、ドイツ法、英米法、国際法に関する図書・雑誌を中心に収集されている。木製の什器や設備にPCやプリンタなどの電子機器類が工夫して組み合わせられ、古い年代の専門資料も多く、昔ながらの手書きの背ラベルが印象に残る図書館だった(写真11)。



写真9 法学部図書館 外観



写真10 アウラ講堂 外観



写真11 法学部図書館 館内の様子